

# 韋駄天の記

大岡耕部 ⑥

韋駄天とは仏舍利を奪って逃げた鬼を追いかけて捉え、また、僧の救難を走っていつて救ったといわれる神のことである。

昭和27年は講和条約が発効され、「独立」が回復した年とされる。連続放送劇「君の名は」の放送が始まった。ハモンドオルガンが流れ「忘却とは忘れ去ることなり。忘れ得ずして忘却を誓う心の悲しさよ」の語りからはじまった。「白鳥事件」「ポロ事件」「メーデー事件」。

再軍備。講和発効は重苦しい気分であつた。時代は韋駄天走りであつた。戦争は忘却したかのようにあつた。いまは「集団的自衛権」「憲法改正」、沖繩問題、安全保障。やはり韋駄天走りである。人は、なぜ戦争をしたがるのか。戦争をすれば

焼酎が入るとぼんぼん判ば押しよらした」。平成19年、民話ミュージカル「長者と河太郎」の指導で青島に泊まった夜、港で

民話ミュージカルは今も継続していて、今年も星鹿小学校である。星鹿は千鶴からの地名ではな

て峠を越えた。御厨には映画館があつた。黒澤明監督の「蜘蛛巣城」もこの映画館で観たはずである。山田五十鈴が怖かつた。名奉行といわれた大岡越前守が、女を裁いていて女がわからなくなつた。越前は母親に「女は幾つ位まで女なのですか」と聞く。母親は、黙って火箸で火鉢の灰を撫でる。「女は灰になるまで女」。そんな映画も観た。わたしはこのエピソードが好きである。「精霊流し」に通じている。私の人生も韋駄天走りであつた。タイトルの「韋駄天の記」は私の人生の意味もある。本音で書きたいが、なかなか本音は書けないものである。くみ取って頂ければ幸甚である。

## 人生の意味を込め

儲かる人がいるのか。

や先生までが参加する青島が丸となつたイベントとなつた。

厨は台所の意味である。今でこそ星鹿から御厨までは車で10分

もあれば行けるが、当時は歩いて

西の果ての漁村にはなんの娯楽もなかった。おやつは蒸かした薩摩芋と煮干であつた。煮干はいいことといった。父は星鹿の

役場に勤めていた。いりこ検査は父の役目であつた。袋に詰め

た煮干を検査するのである。「厳格に検査しよらしたばってん、

おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜世子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜世子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)